

実験心理学研究会

これは、人間行動の海老原さんを中心にした、実験心理（特に知覚関係）関係の外書講読会である。現在、（実験心理学と情報処理）P 101 まで読み進んできている。今より、ムチの時代（元会員の某氏によると、「わけのわからない」理論の時代）から、アメの時代（さし絵などがふんだん）へ移行する時であるので、実験心理に興味のある人たちには、絶好の参加のチャンスである。会員には、ホープといわれる院生の諸先輩方、Ⅲ群の花とも歌われたMiss. K, Miss. Mの先輩方、51生の長老格のY氏、新入会員には、ただいま、料理学校へ行って花嫁修業中のK嬢らが、きら星のごとく輝いている。おしむらくは、自称「総科初のノーベル賞受賞候補」某氏の脱会である。なお、安藤さんが、今月（5月）にパパとなられたのにひきつづき海老原さんも今年中にもパパになられるという目出たいことを報告し、安藤恵美ちゃん（安藤家長女）ならびに海老原なんとかちゃん（海老原家長子）のすこやかなる発育を祈って筆をおく。

民法コロキウム

昨年11月頃から、学生の強い要望もあって、毎週1回夜間の民法勉強会をはじめました。

これには、主として公務員試験をめざす総合科学部の学生だったらだれでも参加できますが、なるべく3、4年次生に出てもらいたいと考えています。公務員試験で重視されている民法の解釈を、各自がこつこつと勉強しなければならないことはいうまでもありませんが、その上で法律独得の技術や言いまわしを習熟するためには、寄り集まった者で討論してみることが大切である、というねらいのもとに開いています。

将来はこのコロキウムを学生諸君の手で自主的に運営して行ってもらいたいものですが、それまで当面の間は私たちも援助を惜しまないつもりです。このコロキウムに参加した者の中から、地方公務員はもちろんのこと、毎年複数の国家公務員（上級）になる人が生まれ育ってくれることが期待されています。ことしもまた5月から再開しましたが、学生諸君の積極的な参加をお願いします。（富井・伊藤教官記）

Mathematics for Tomorrow

これは、小野茂教官をして「遠大な計画ですね」と言わせた、まったくもって気の長い数学入門の研究会である。新曜社の「社会科学・行動科学のための数学入門」を第1巻から始めて、第10巻まで全巻やり通すことを目標にしている。週に1章すすむつもりであり、1巻あたり2ヶ月として年に5巻、2年計画である。現在、人間行動の海老原さんを中心に3人でこつこつやっている。楽天家の老・横山氏も、大学を出るまでに完了することに対して悲観的であることを言えば、その道のりの長さは、わかろうというもの。最後に老・横山氏の伝言「1週間に1章やれる人なら、来てほしい。少なくとも冷遇はしないから。」

正式名称：瀬川あづさ事務所、略称：事ム所

瀬川あづさ事務所は、芝居をやるところです。公演八週間前：数人の目つき陰しき策略家達が、みかんなど食べながら、「今度の芝居は」とささやきあう。

七週間前：広大前阿米里加などにて、水しか注文しない団体が、脚本選びを始める。

六週間前：口から口へと場所と時間がささやかかれ、呼びかけ人が芝居の題名を伝える。

五週間前：台本が印刷され、何を思っか集まった連中に配布され、役者志願が役をとりあう。

ここで、この芝居をやるために集まった連中（主に総科の51生ですが）の総称として、「瀬川あづさ事務所」という登録団体名が臆面もなく使用される。

四週間前：劇の準備が始まる。

三週間前：演出家の胃が痛む。

二週間前：役者が自信を喪失する。

一週間前：スタッフ一同、不安におののく。

前日：笑っている。

そして公演が終ると、長い鬱状態がくるのです。

オペラント学習の会

情報行動科学コースⅢ群のラットを使って実験をしようとする学部生、院生計6名は杉本教授を囲んで学習会を開いています。学習会と言っても難しいものではなく、基礎をガッチリ固めようと言うことで、スキナー・ボックスを使ったオペラント学習実験をやる上で、その手続きのABCから学んでいます。教材は「Experiments in Operant Conditioning」という英語の本で、毎回2、3人が分担の場所を話し、疑問点を出します。それについて教授の意見を伺ったり、討論したりするのです。何か堅苦しい勉強会のような感を与えたかもしれませんが、実際は、なごやかな雰囲気の中で、菓子をつまみ、コーヒーを飲みながらのびのびと気楽にやっています。場所はプレハブC棟1階情報行動学生実験室で、いつもは教授の美人助手さんが仕事をしています。興味のある方はのぞいてみて下さい。隔週土曜日午後3時からやっています。

情報行動科学コース数理系お勉強会 PART I

私たち情報数理系3年有志+α、6名は毎週水曜78時間目に、自然科学の父—数学—、その数学の母—微積分学—について演習を行なっています。

毎回、授業には出ずとも情報研究室には集まり、黒板に問題を書き、各自がそれぞれに解き、できた者による解説を全員が理解するまでやっています。

基礎的な定理の証明から応用へと進めて行きます。

私たちが受講している講義で微積、線形代数を必要としないものはありません。また微積だけではなく、現在行なわれている情報数学の勉強や、さらには、10月に行なわれる情報処理技術者認定試験の勉強会も開きたいと思っています。これらは演習をすることが目的ではなく個人の理解が目標です。また教官による授業とは違ったものなのです。

現在3年生だけですが、2年生さらには1年生の参加も期待しています。(ライオンズファン大歓迎)、なお参加者には、プログラミング通論Iなどについてもかなり詳しく説明します。

ヨガ研究会

ヨガとは何か?それは決してヘビのように体をくねらせることが目的のものではなく、また針の上に寝たり、心臓を止めて土中に生き埋めになったままで数十日をすごし、再び生き返ったりすることではなく、逆立ちしたまま飲み食いをするものでもなく、2週間断食をしながら毎日ランニングをしたり、パーベルを持ち上げたりするものでもなく、また鉄棒をアメのようにへし折るものでもなく、難解な哲学的思索を積み重ねるものでもなく、百科事典を片っ端しから記憶するものでもなく、一日中四つん這いになって野原を駆け回るものでもなく、木の実を食い、草を噛み、雨水を吸って、髪ぼうぼうアカだらけの隠者のような生活をするものでもなく、ましてや、コップの中のミルクを口を使わずに体の一部分を使って吸い上げる男だけに可能性の残された枝を修得するものなどでは決してない。では再びヨガとは一体何なのか。それは僕にもわからない。しかし誰でもそれを行うものは今までとは違った自分を発見することが出来るだろう。そして、それを修得したものはあるいは聖者のようになれるかもしれない。

紫閣社

雑誌を作っています。名付けて「死角」、まだ創刊号しか出ていませんが、この小文が「飛翔」に載る頃には、第2号が出来ていると思います。

創刊号は、A4版、ガリ刷、54ページで、小説あり、童話あり、ルポあり、評論あり、バラエティーに富んだものです。現代学生気質がよくわかるとごく一部で評判を呼びました。

雑誌を作ろうと思いついた理由は、創刊号の編集後記の言葉を借りれば、「何もやっていない焦燥、何かで自己表現したいと欲望、何かを造りたいという意欲」に集約できます。しかし、実際出来たのをみれば、惨憺たるもの、自分たちの力量不足を痛感した次第です。

いろいろな制約から、今は地域文化コース日本研究専攻の学生を中心に活動しています。なんとかもっと幅広いものにしていきたく、この場を借りて、興味のあるみなさんの参加をお願いします。少しですが、創刊号も残っています。一度、総科新館5階の地域文化学生研究室に来てみて下さい。

あすへの一步（幻の勉強会）

夏の日差しがちらほら感じられるようになった今日、この頃、皆さんはどうお過ごしですか。

わたしたちは、情報行動科学コースの3年、7人組です。現在、わたしたちが勉強している多くの専門科目の理解を助けるために、毎土曜日の3・4時限を利用して、情報数学の基礎を固めています。わたしたちは、それほど勤勉な学生とは言いがたい。この勉強会は、教官を囲んで行なうものではなく、学生が集まってやっています。いわば、趣味と実益を兼ねたものです。難しい数式や定理を解く合い間には、バカな話も混じえており、回りから見れば、勉強している雰囲気は感じられないだろう。しかし、わたしたち自身、満足しているのだからよかろう。

わたしたち、3年は、今何かを見つけるために奮闘しているところ。若輩のわたしたちにできることは、まだまだつまらないことだろう。が、近いうちに、何かが見つかることを望まないではいられないのである。ナンチャッテ！

環境巡検会

環境51生6人でこの5月に発足しました。毎週、日曜日を使って広島周辺の日帰りできる所へ、石や花を取りに行く会で、いわばmini巡検会です。

教室で教わる知識を、実際の現場で一つずつ手でもって確かめたいというのが、そもそもの動機です。

調査対象及び内容は、教官の方々に相談したりして一週間のうちに下調べします。もし論文が出ている場合は、手っとり早いのでこれを利用します。とは言っても一日のことですし、元来遊びの気持ちの方が強いので、よい空気を吸い日光を浴び雨をくぐるといのが目的かもしれませんね。

先日、隊長と取締役の二人で宮島に水晶をさがしに行きました。一日中歩いて、水晶のかけらをやっと1個拾うことができ、感激のあまり涙にむせぶというほどのしろものでもありませんでしたが、とにかく1回目は成功でした。

個人プレーの方が何かと動きやすいこともありますが、集団にもそれなりの利点があると思うので、このような会を作りました。誰でも、人間でも犬でもけっこうですから、参加したい方は三年のいるB棟まで。

そして——広報委員会

いつも思うのですが大層な名前ですね。学生広報委員は、選出されて成る教官方のそれとは違い、それぞれ紆余曲折はあってもみんな「飛翔」への何らかの思いを抱いて自ら加わって来た人たちばかりです。だから委員なんて名目上の肩書。つまりこの雑誌は期間ごと事務的に発行されているのではなく、この人たちが拙いながら、企画を練り原稿を依頼し編集し四苦八苦して発行しているものなのです。この無償の奉仕は、発行後のみんなの反響で報われないと常に願っていますが、なかなか思うようにはいきません。現在三年2人、二年7人。引退した四年生も7人いました。この比率、何かを思わずにはいられません。たった2人の三年生は7人の二年生との激しい応酬に対処するため、いま切実に味方を必要としています。特に地域と情報からせめてひとは加わってほしい。現在、全員で9名ですがまだとても足りません。三年が頼りにならないとすれば一年生、あなたしかありません。いちど編集会議をのぞいてみませんか。毎週水曜日、5時から清水先生の教官室を借りてやっています。